

JIC スタッフより新年のご挨拶

2012



あけましておめでとうございます!!

本年も JIC 国際親善交流センター及びジェーアイシー旅行センターを
よろしく願い申し上げます。

困難は続く、されど前進あるのみ！

2011 年は日本の社会史上に残る困難な年となりました。しかも大震災の爪跡と原子力災害という理不尽かつ甚大な被害は今年も引き続き私たちの上にのしかかっています。日本社会の長期にわたる再建作業はまだ始まったばかりです。昨年末の「1 年の言葉」に『絆=きずな』が選ばれたように、私たちのお互いの協働作業をさらにひろげ、人と人との結びつきを強くする年にしたいと願っています。

同様に JIC にとっても、今年は再建にむけた困難な仕事が続きます。新年を祝いつつ、同時に、旅行会社としても、交流団体としても一段と活気にあふれた年にしたいと決意を新たにしています。

昨年は、モスクワの取引先・リュドミラ社長と歩く四国八十八カ所遍路の旅をついに完遂しました。4 年がかりの「区切り打ち」で約 1200 キロの道のりを歩き通し、高野山の奥の院にも麓の慈尊院から歩いて登ってきました。

「なぜ人は歩くのか。多くの場合、歩くと生きるは同義だ。歩くとはどこかに向かう過程だから、人生に例えられる。人は歩きながら、考えたり、祈ったり、涙したりする。目標に到達できるか分からない。……(略)、歩きながら人生を振り返る瞬間がしばしばあり、心の中の変化を感じたと語る人もいる。宗教を問わず巡礼があるのは、歩くことが内省を促すからか。」(日経新聞コラム「春秋」09 年 6 月 24 日)。

歩きながらいろいろなことを考えました。歩くことでこれまで気がつかなかった何かが見えてくることは確かにあると私も思います。

外国人の目から見ると日本はとても美しく、優しい人であふれ、ユニークな文化を持った国と映るようです。確かにそのとおりではあるのですが、私にとっては、四国を歩いてみて、かつて美しかったはずの日本の国土を道路や住宅などの「乱開発」がいかに大規模に破壊したのかも目の当たりにすることになりました。地方都市の商店街がまさに「シャッター通り」と化し、経済的にも文化的にも疲弊している姿もよく見えてきました。

逆に、そんな故郷を何とか元気づけようと知恵を絞り、産物でも食べ物でも、温泉でも伝統文化でも、何かそれぞれの地域特有の価値を見つけ出し、活性化に取り組んでいる



88 番大窪寺に到着(12 月 4 日)



ついに四国一周！ 一番霊場・霊山寺の前で(12 月 5 日)

人たちの存在も確かに感じ取ることができました。

日本政府は「観光立国」を掲げ、訪日外国人客 2000 万人の実現をめざしていますが、日本の文化や自然を美しく保つ上でも、地方経済の活性化をはかる上でも、観光業・旅行業の持っている潜在力は非常に大きなものがあるとの思いを強くしました。

自分の持ち場でできることを最大限にやり抜くこと、これを今年の私自身と JIC の目標にして仕事に取りかかりたいと思います。本年もよろしく願いいたします。

ジェーアイシー旅行センター(株)代表取締役
JIC 国際親善交流センター副会長
伏田昌義

3 月 11 日から 9 カ月 ～観光業の現場から

昨年 3 月 11 日の震災と福島第一原子力発電所の事故直後の 16 日、当初から予定していたモスクワへのツアー見送りのために成田空港にいました。余震が続く中、空港へのエクスプレスは運行中止となり交通は乱れていましたが、海外への渡航者の様子は意外に平静でした。ただいち早く日本への渡航自粛勧告を



2011 年 3 月 18 日 モスクワ郊外の星の町
弊社社員撮影

を發出したフランス国籍と思われる子連れ家族の多くがマスクをして航空機のチェックインを待つ姿が印象的でした。仕事から海外でのテロや自然災害などにより日本外務省が出す渡航延期勧告や注意喚起には敏感になっていますが、自分の住んでいるこの国が海外からその対象にされていることに何やら奇妙な気持ちになりました。

空港でツアーを見送ったその週、社内ではロシアへ一時帰国する日本在住のロシア人のお客様の航空手配に追われることとなりました。すぐに帰国ラッシュは収束しましたが、近年 JIC の業務として年間 2000 名を超えるまでに拡大してきたロシアから日本への観光・視察のグループ受け入れ(いわゆるインバウンド)は、ぱったりと途絶えてしまいました。そして原発事故から 9 カ月以上経過した現在に至るもロシアからの観光客、渡航者はもどってきていません。

観光産業は平和産業とよく言われますが、自分が住み暮らしているこの国土や自然、安定した生活そのものが貴重な資源であり、生産財そのものなのだと痛感しました。

読売新聞社が昨年末(11/26 朝刊)に英国 BBC 放送と共同で原子力発電についての世論調査を 23 カ国を対象に実施しました。日本は「今ある原子力発電所は利用すべきだが、新たに建設すべきではない」が 57%、「既存の原発もできるだけ早く廃止すべき」が 27%。これは原子力大国フランスとほぼ同じ数字。意外だったのはロシアで、新しいものや、科学技術大好きこの国で「できる限り早く廃止」が 43%に達し、昨年いち早く原発の廃止を閣議決定したドイツの 52%に迫る数字です。

チェルノブイリ原発事故からすでに 25 年経過していますが、ロシアの人々の記憶の中ではまだとても重い出来事なのだとわかります。新しい年を迎えますが、今の事態をどう位置づけていくかとても切実な課題だと思っています。

JIC 東京 杉浦信也

EURO2012 !

あけましておめでとうございます。

今年もサッカーがたいへんです。EURO2012 というヨーロッパで 1 番の国を決めるサッカー大会が ウクライナとポーランドの共同開催で行われます。W 杯より内容が濃いと個人的には思っています。今から楽しみで仕方ありません。弊社のアウトバウンド部はウクライナのホテルやチケットを手配できるのでしょうか？みなさま、お問い合わせ下さい。あ、私は日本に来る旧ソ連のお客様を相手していますので、詳しいこと知らないのです。すみません。でも、『やれよ』って発破かけているので、きっと頑張ってくれると思います。

組み合わせ抽選の結果を受けて、いろいろと言いたかったのですが、この原稿の締め切りに間に合わない、という致命的一打のためにそれは断念。東欧初の開催国となったウクライナ、ポーランドの 2 カ国をひいき目に見て大会を妄想しようと思いましたが…ぱっとしません…。シェフチェンコも



ピバ、ルフトハンザ

おじさんだしなあ、シャフタル・ドネツクというウクライナのクラブチームが最近チャンピオンズリーグで調子いいのですが、ブラジル人のおかげなので代表の強さにつながるかどうかは疑問です。ポーランドはキ

ーパーはいいのですが、ほかにはレヴァンドフスキがいますが一人で打開する人じゃないので…。んー、あんまりおもしろくないので、組み合わせ自体の妄想をはじめます。

ポット 1: ESP, NED, UKR, POL

ポット 2: GER, ITA, ENG, RUS

ポット 3: CRO, GRE, POR, SWE

ポット 4: DEN, FRA, CZE, IRL

スペイン、ドイツ、ポルトガル、フランスだと死の組、というのはどこでも言っているようです。でも、今フランスはパツとしないので、アイルランドとか混ざった方が意外に面白かもしれません。ポルトガル、予選苦戦しました。あれだけタレントがいるのに、『優勝できない、しっくりいかない病』がどうしても治らない。かわりにギリシャがそこに入って、2004 年の再来よろしくかき回す方が面白い！イタリア、ポルトガル、フランスという最近パツとしない国にスペインが入って、ラテン人同士仲良くやるというのはいかがでしょうか？スペイン、イタリア、ギリシャ、アイルランドという経済的に死んでいる組、というのをインターネットで見たのですが、素直に笑えなかつ

たのは私だけではないはず。ズっとします。オランダ、ドイツ、スウェーデン、デンマークの巨人の組。意味不明。ウクライナ、ロシア、クロアチア、チェコというスラブ組は実力伯仲と言った感じで意外と面白いかもしれません。(あー、たのし。)ロシアに関して意見をすることを忘れていた…。要世代交代！この一言です。4 年前とほとんどメンバーが変わってない。そのほとんどが 30 歳前後。円熟期でこの大会を迎えるのはいいのですが、若いの出してやらないとその後が続きません。アルシャーヴインがいなくなったらまた弱くなった、言われるのが関の山です。希望はザゴエフぐらいでしょうか。コンスタントにチームの試合に出ているは大きい。あとは、デキる子なので前に出て行って点を取る姿勢がほしいです。これで、HDD レコーダーが壊れなければ今年の夏は楽しいことが決定しているので、あとは、お客さんが日本に戻ってきて、仕事においても年間通して楽しくなってほしいものです。みなさんにとってもよい一年でありますように。

JIC 東京 林 寛之

今年もお出かけに挑戦

あけましておめでとうございます。

ここ数年、本欄でのご挨拶は、ずっと子どもがらみの事になってしまい恐縮です。子育てを経験された方にはご理解いただけたと思いますが、どうしてもこの時期は、話題といえは子どものことばかりになってしまいます。

長男は4歳9か月、次男も3歳2か月を迎え、日々たくましく、また自己主張も増してくるようになりました。平日は子供の寝顔を見ることしかできないので、休日はコミュニケーションと思いつくように、努めて一緒にお出かけするようにしています。しかし、昨年は、3月の東日本大震災以降、年の前半はどうしても足取りも重くなってしまっていました。それでも夏には気を取り直し、大阪から往復フェリーを使って韓国・釜山に出かけ、秋には草津の名湯と碓氷峠の鮮やかな紅葉を楽しんだり、日帰りで茨城・大洗までドライブし、水族館



を見学した後、地元産の魚に舌鼓を打ったりしてきました。子どもたちも、草津では高原の冷氣の下、エメラルドグリーンに輝くお湯にじっくり浸かったり、大洗では、イワシの大群にはしゃぎ、サメに肝を冷やしたあと、その日の朝に水揚げされたシラスをほおぼったりと、大人と一緒に楽しんでい

ました。

草津は、震災後の原発事故の影響で、特に外国からのお客さんの客足が遠のいたまま、と聞きました。また、大洗の海岸沿いは、津波でかなりの被害があったそうでしたが、施設などはすっかり復旧し、爪跡は見られませんでした。人影はまばらでした。二度と巡り来ない今を存分に楽しむために、そして日本の活力を増していくためにも、今年もできる限り「お出かけ」していきたいと考えています。どうぞよろしくお願ひ致します。

JIC 東京 神保 泰興

明けましておめでとうございます！

明けましておめでとうございます！嵐のような 2011 年がようやく終わりましたね。皆さんにとって、去年は様々な事を考えさせられる年になったのではないのでしょうか。僕も例外ではありません。1 月に娘が生まれ、幸せ一杯の生活を送りはじめた矢先、東日本大震災が起こりました。テレビで流れた



津波の映像は一生、決して忘れる事はないでしょう。しかし、この大震災をきっかけに僕は新たな友達を得て、そして家族、旧友、職場の同僚の大切さを今までにないぐらい強く感じました。今まで敬遠しがちだった在日のロシア人社会に思いっきり飛び込み、数多くの仲間に出会いました。そして皆で日頃お世話になっている「日本」という国に少しでも

恩返ししようと、様々なボランティア活動やチャリティ・イベントに精を出しました。

「神様は乗り越えられる試練しか与えない」。TBS の日曜劇場「JIN-仁」で何度も使われた台詞ですが、震災後の月日を通して、僕は何度もこの台詞に共感しました。つらい事は永遠に続くはずがない。不幸な出来事は人を強くするだけでなく、周りの人間の痛みも分かる、優しい人に変える。

2012 年は日本に住んでいる全ての人にとって、きっと素晴らしい年になると思います。新たな希望、新たな幸せは間違いなく皆さんを訪れます。暖かい家族、どんなことがあっても側にいてくれる友達、そして日々一緒に仕事に取り組む職場の仲間。ふと気づくと、数々の小さな幸せは皆さんを既に囲んでいるはず！僕はこれから周りの人々との絆をもっともっと大切に行きたいと思っています。皆さん、共に頑張る、共に幸せを噛み締めましょう！

JIC 東京 モロゾフ・デニス

2011 年夏のある日の旅日記

早朝、ペトロザボーツク行きの夜行列車の中にいた。目覚めてすぐ、外を眺めながらたっぷり砂糖を入れた甘い紅茶を楽しむ。3 回目のペトロザボーツク。だが今回はキジー島が目的ではなくオネガ湖畔で合宿キャンプをする 20 人程のロシア人グループにまぜてもらったためだ。

列車が到着し、約 30km 離れた郊外のベースへタクシーで向う。ベースは小雨が降るあいにくの天気。でもすぐに嬉しくなった。寝床はコテージで、窓からはすぐ目の前に湖が見え、小波の音がリラックス音楽のように聞こえてくる環境で、昔故郷でキャンプしたことを思い出したからだ。

午前中のヨガのトレーニングも終わっていたので、ブランチをとる。食後は昼寝。酸素たっぷりのおいしい空気を吸いながら睡眠を満喫。14 時近くになり起きるが、まだ天気が良くなく午後



オネガ湖ビューの客室より

のヨガは中止との知らせ。コテージ

付属の外のテーブルで同宿に泊まっているおばちゃんたちと午後

ティーを楽しむ。聞くと今日は参加者のマーシャが 18 歳の誕生日を迎えたので夜ささやかにお祝いをするという。夕方前に買い出しに行く人がいたので同行させてもらい、プレゼントになるものを探す。だが、なかなかこれが見つからない。贈り物に出来るようなものは見つからず、何も買わずにベースへ戻ってきた。仕方ないので、何かいいお祝いの言葉をかけることにした。

夜も近くなり、外で男性陣が炭で火を熾しバーベキューの支度を始めた。肉や野菜、魚を焼いてお祝いの準備をしていく。女性陣も会場となる食堂でセッティングをしている。

会場へ。席を探していると、ここにどうぞと促される。主賓のマーシャの隣の隣という上席だった。しかも隣に挟むのは彼女のお父さん。その場にいた唯一の外国人であった私は有り難いことに大事な客ということでもてなされた。

宴会が始まった。マーシャのお父さんがウクライナから買って来たというウォッカをついでくれる。何故か飲むのは私と二人のみ。まずはヨガの先生が乾杯の音頭をとった。熱い酒が久しぶりに空腹のカラダに入っていく。次々と乾杯の挨拶が続く。ふいに「準備できた？」と聞かれた。どうやら客の私も挨拶をしなければいけないらしい。すでに 5,6 杯はウォッカを立て続けに飲んでいただろうか。宴会前に考えていた

ロシア語のお祝いの言葉たちは既にどこかに飛んでいた。そろそろという雰囲気になったので立ち上がり、ふらふら状態で必死に話した。文法も結構間違っただし、大したことはないえなかった。しかし皆笑顔で、嬉しそうだった。

夕食も無事終わり、24 時ころバーニャへ。熱さましにつかった湖。気持ち良くて 2 往復した。

翌朝、ようやくヨガに取り組む。その後、この日はロシア正教のお祭りがあったのでペトロザボーツクに戻り見学。そして、後ろ髪を引かれる思いで再びモスクワに向かった。楽しい旅、2012 年も出来ますように。

JIC モスクワ 相澤 進之助

毎日必ず

新年おめでとうございます。

元旦に何か定めて三日坊主、というのはよくある話ですが、実際私は昔から「毎日必ずXXをやる」ことが苦手です。夏休みの日記は必ず最後にまとめ書きでしたし、同じ家から会社に何年通っても「必ずこの電車」はなく、寝起きの時間もまちまちで今では午前 2 時まで寝ることもあれば 2 時から寝ることもある生活です。

そんな私が近頃ようやく「毎日やってる」と気付いたこと。それは「料理」。もともと料理好きではなく、やりたいわけでもないのですがやらざるを得ない状況です。子供が二人とも穀物にアレルギーがあり、外食する時でさえ特別なパンケーキだけは焼いていくような手弁当が必要なので、必ず台所に立つのです。

するとどうでしょう、近頃どうもお料理が出来るようになってきた気がするのです。いや上手くはないんですが、理解してきたというのでしょうか。この具材なら醤油と砂糖の割合はこれくらい。粉とバターと卵がこの量のクッキーならこんな歯応え〜などと想像できるので、応用出来るようになり楽しいです。



イモ掘り遠足の土産は速攻スイートポテト

ここに至るまで 5 年もかかっているのに、もともとどれだけセンスないのか…我ながら呆れますが、とにかく一定の進歩が見られてはいます。時間をかけて向上していく、こんなことを実感するのは実に人生で初めてのことに

でございます。

しかし近頃子供も成長し、少しずつですが食べられるものが増えてきました。おかしな家庭で、外食でジャンクなところに行くと食事が出来ると、成長を感じて妙に嬉しくなってしまうのです。この夏初めてモ〇バーガーで手弁当なく食べた時の喜びといたら。

折角手料理が当たり前になっているところ、そんな喜びからまたもや「毎日やる」が途絶えてしまうことのないように自戒しつつ、今年もじゃかじゃかゴハンを作りたいと思います。

JIC 東京 百瀬 智佳子

ロシアへ留学しましょう！

JIC には、日々、ロシア留学を志す様々な方がいらっやいます。2011 年は長期・短期合わせて 200 名以上が留学し



トゥラカイ城

ました。年間 200 名を超えたのは JIC 史上初のことです！

近年のロシアは、経済的に発展し、街を歩いてい

ても他のヨーロッパの街と異なる点もさして見受けられなくなり、留学をすることも、今ではさほど困難なことではなくなってきたのかもしれませんが。昨年は春休み、夏休みを利用しての短期研修生の増加が顕著で、ロシア留学が学生の間でもより身近な存在になってきているのかな、と感じます。

ロシア語は国連公用語の一つで、世界中に 2 億 6000 万人の話者がいると言われていています。ここで、私がロシア語を勉強していてよかったな〜と思ったエピソードをひとつご紹介したいと思います。

Санктペテルブルグに留学中、バルト三国を旅行した時のこと。リトアニアのトゥラカイというお城のある小さな町に遊びに行きました。バスを降りたところで、現地人らしきおばあちゃんがお散歩していて、東洋人が珍しいのか私たちの方に近寄ってきました。その時一緒にいた日本人の友達が英語で話しかけると、「わからないわ」というような悲しそうな表情になりました。そこで私が「ロシア語は話せますか？」とロシア語で尋ねると「もちろん！」と一気に表情が明るくなり、自分のことをいろいろ話してくれました。なんでも、そのおばあちゃんは 15 世紀にクリミアから傭兵として連れてこられたという少数民族、カライメ族の子孫だそうで、トゥラカイで伝統的な文化を守りながら生活しているとのことでした。ロシア

語ができることで 2 億 6000 万人と繋がれる、ということを実感できた瞬間でした。

本年も、ロシア留学を志すみなさんを引き続き全力でサポートしていきたいと思っています。本年も JIC をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

JIC 東京 富樫万里枝

今年こそ海外へ

あけましておめでとうございます。

私が大阪オフィスに復帰してもう 5 年、子供たちも 6 歳になりました。子供ができてまだ 1 年、まだ 2 年だと思っていましたが、振り返るとあつという間だったのかもしれませんが。JIC に復帰してお客様の手配をしながら、いつか私も海外に行きたいと思いつつ 6 年以上が過ぎてしまいました。

この間少しずつ子供たちも成長し、1 泊程度であれば家を空けても大丈夫になりましたが、残念ながら子供を日本に置いて海外旅行に行くような状況にはまだなっていません。子供を連れていけばいいと言われますが、腕白な男の子二人を連れて海外を楽しめるほどタフでもなく、その上子供はどちらかと言うと内弁慶で、新しいところに日帰りで出かける時でさえ行く前から「何時に帰ってくるの〜？」と予防線を張るほど新しい場所が苦手ということも、海外行きをためらっている理由です。

と思いつつ自分を振り返ると、そういう私も初めての海外がウラジオストクの留学だったし、何かのついでや誰かの招待、無料のユーロスターのチケットをもらったりなどのきっか



もうすぐ大阪事務所も移転します

けがなければ、海外に出ていなかったなあと思い出しました。あんまり人のこと言えないですね。

まあ今年の子連れグアムとかハワイで、何とか海外を目指したいと思います。本当はモスクワや Санктペテルブルグを歩いて、この 6-7 年の変化を感じたいのですが、子連れにはまだまだ不便が多い街のような気が

するので(もちろん人はいいいのですが)。

ところで今年は JIC 大阪は留学専門デスクとして生まれ変わります。新しい JIC 大阪を今後共よろしくお願ひします。

JIC 大阪 小原浩子

飛行機嫌いを克服?!

私は自他共に認める大の飛行機嫌いです。昔乗った某航空会社の飛行機がエアポケットに入り、それはそれは恐ろしい体験をしたのです。それ以来、海外旅行とは無縁の生活をしていたのですが(旅行会社の社員ですみません…)、昨年は飛行機に関する出来事が沢山ありました。

まずは、「飛行機に乗らざるを得なかった」海外登山。趣味で山へ行くとはいえ、飛行機への恐怖は消えません。マレーシアへのフライトでは、不安解消の飲酒で悪酔いし、終始不快な空の旅に。ロシアでは、コーカサスのミンボディからペテルブルグへの機内の新聞に、「危険な飛行機ベスト 10」という、顔が青ざめるような記事が!! 運悪く、搭乗していた機種が堂々上位にノミネート。更に、ホテル到着時のロビーの大画面 TV には、前日起きた国内線墜落事故の映像が…。帰国日には、「どうか生きて日本に帰れますように…」と涙ながらに祈り続けたフライトに。

次に、11 月 3 日文化の日に行った航空自衛隊入間基地の航空祭。モスクワ国際航空ショー(MAKS)の話をしたのがきっかけで、「日本にも航空ショーあるから見に行く?」と話が発展したのです。初めて入る自衛隊基地には、見た事もない数々の飛行機が展示。主人のアツイ説明を聞くと共に、戦闘機というヤツに興味をわいてきたのでした。轟音と共にとんでもないスピードで頭上をカッ飛んでいく戦闘機のデモンストレーションフライトには、心底圧倒されました。そしてショーのメインイベントでもあるブルーインパルス(航空自衛隊の展示飛行専門チーム)のアクロバット。ぴったり息のあった編隊飛行で数々の技を披露。真っ青な空をキャンパスに、白いスモークを描く曲芸はとても見事で、素人ながらに驚きと感動の連続でした。

そして、極めつけはプラモデル初体験。航空祭で一目惚れした F-2 戦闘機をこの手で作りたという欲望にかられ、インターネットで即購入。プラカラーや筆を買いそろえ、主人の指導のもと、朝から晩までプラモに熱中。2-3mm の細かいパーツ達とはピンセットで格闘し、爪楊枝を駆使して色を塗る。まるで子供のように、時間を忘れてプラモ作りに没頭したのでした。逆に大人だからこそ、ハマ



初めて作ったプラモデル 手前が F-2A
奥は主人の F-2B

ってしまったのかもしれませんが。念願の F-2 が完成した今となつては、近々ブルーインパルスも我が家へ迎え入れようと考えています(笑)。

好きも嫌いも紙一重とは言いますが、嫌いな飛行機をきっかけに、新たな楽しみを見つけました。乗るのは相変わらず苦手ですが、少しは飛行機嫌いを克服できたかな?

JIC 東京 白井 真理奈

パスポートが使えない

パスポートが使えなくなることもある。汚れたりぼろぼろになったパスポートは機械でデータをピと読み取られにくくなり、

日本の出入国自動化ゲートは利用できず、係官の居るところでハンコをぼんと押してもらうことになる。異国の入国管理の人にはちょっと面



撮影地: 幸せの国 右は相澤さん

倒くさい顔をされた後、パソコンのキーボードでパスポートデータをかちかちと打ってもらう。

ハンコを押すページがなくなってしまう場合もパスポートが使えなくなる。ビザが必要な、少し手間のかかる「どこかの国」へ旅を重ねていると、自動化ゲートで日本出入国のハンコが全然押されなくても、1 ページ全面に貼られていくビザでパスポートの白いページはどんどん減っていく。どこかの国へ行きページがなくなった。

ページが尽きたことは小さなきっかけで、大きなきっかけは、「幸せの国」を訪れて毎日たくさんの幸せな人々の笑顔の中で過ごしたこと。幸せの国が心の奥の何かを変えた。パスポートが使えないならパスポートを持たないで旅へ出よう。異国への旅を一旦おやすみしてみよう。そしてあらためて、この国を旅してみよう、見てみよう、歩いてみよう。

まずはこの国で一番高い所まで登ってみる。その次は不思議なお堂を見に行こう。崖の窪みに建つ、役行者が投げ入れたというお堂を。そしたら今度は北の国へ飛び、そしてその次は 4 つの国が集まる島を一周ぐるりと歩いてみよう。

今、こまごまとくり返しその島を訪れ、一步一步地面に足跡をつけている最中。ゆっくりじっくり時間をかけて前に進んでいる。パスポートを持たないそんな旅を、いつ、どこで、どんな形で終わらせられるのかわからず、こっそりとページ増補の申請をしたりして。

JIC 東京 金井 義彦

どこか懐かしかった韓国

韓国ドラマや K-POP 等、韓国のエンターテインメントは好きで時々見たり聞いたりしているのですが、なぜか今まであまり韓国に行きたいという気持ちはありませんでした。それは恐らく、あまりの近さに異国情緒を感じられないだろうと勝手に思い込んでいたからかもしれません。そして去年の 9 月、突如降って湧いた韓国旅行の話。海外に行ったことがない友人と常々、「いつか一緒に海外に行こう！」と話していたのが、急に現実のこととなりました。でもなぜ韓国？ それは単純に、ツアーが一番安かったからです。

海外といっても、明洞の地図を見るとここは東京？と見まごうほど、ユニクロや H&M 等、東京でよく見るお店やコンビニが並んでいるし、レストランでも大体日本語が通じるらしいし、半分国内旅行気分でお出掛けなのですが、行ってビックリ、そこはやはり異国の地でした。

まず夜遅くに明洞から、少し離れたホテルにタクシーで帰ろうとしたのですが、日本のように流しのタクシーを捕まえると、とんでもない料金を吹っかけられるそうです。(昼間は普通にメーター制で走ります。)なのでお店の人にタクシーを呼んでもらいましたが、料金は交渉ベースです。

「3 万ウォンでどうですか？」

「うーん、そんなにお金を持っていないので 2 万ウォンなら…」

「OK！」え、そんな適当でいいんですか？

あとはあまりきれいな話ではないのですが、トイレトーパーを流さずにゴミ箱に捨てる習慣があることにも驚かされました。(もちろん、ホテルでは違いますが)あ、これってどこかで目にしたような…？ そうだ、ロシアだ！ そういえば街中



漢江をバックに

では女の子同士が腕を組んで歩いていたなあ。これも日本ではあまり目にしない光景ですね。こんなに近くても日本とは全く異なる文化、これが大陸的な文化なのでしょうか。地下鉄に乗った時は、私達の会話を聞いて「私、日本語勉強しています。どこに行くのですか」と声を掛けてくれた男性が、私達が逆方向に乗っていることに気づくと、降りた駅の反対側のホームまで案内してくれました。(奥様も一緒だったのに…) そういえば、ロシアの人達も親切で温かかったなあ。このように、ふとしたところでロシアを思い出している自分がい

ました。海外初体験の友人は、それなりにカルチャーショックを受けていたようです。今度は彼女とロシアに行ってみたいと思います(笑)

最後になりますが、2012 年が皆様にとりまして実りの多い、よい年になりますよう、お祈りいたします。

JIC 東京 佐藤 早苗

2012 年、“減煙”Year

新年、明けましておめでとうございます。

毎年変わらず、あつとゆうまに 1 年がたちました。今年の目標は・・・毎年この文章を書く度にこれにしよう！など決めています。いつの間にか挫折して 1 年が過ぎてしまいます。そして今年の目標はタバコ・・・減らすです。と言ってもそれほど吸う訳ではないのですが、世間は禁煙、禁煙カフェやレス

| | | |
|---|---|---|
| КУРЕНИЕ МОЖЕТ ЯВЛЯТЬСЯ ПРИЧИНОЙ ИМПОТЕНЦИИ | КУРЕНИЕ ВО ВРЕМЯ БЕРЕМЕННОСТИ ПРИЧИНЯЕТ ВРЕД ВАШЕМУ РЕБЕНКУ | КУРЕНИЕ ВЫЗЫВАЕТ СИЛЬНУЮ ЗАВИСИМОСТЬ, НЕ НАЧИНАЙТЕ КУРИТЬ |
| ОБРАТИТЕСЬ К ВРАЧУ, ЧТОБЫ БРОСИТЬ КУРИТЬ | ЗАЩИТИТЕ ДЕТЕЙ ОТ ТАБАЧНОГО ДЫМА | КУРЕНИЕ ВЫЗЫВАЕТ ПРЕЖДЕ-ВРЕМЕННОЕ СТАРЕНИЕ КОЖИ |
| КУРЕНИЕ ПОВЫШАЕТ РИСК СМЕРТИ ОТ ЗАБОЛЕВАНИЙ СЕРДЦА И ЛЕГКИХ | КУРЕНИЕ - ПРИЧИНА РАКА ЛЕГКИХ | КУРЕНИЕ - ПРИЧИНА ХРОНИЧЕСКОЙ БОЛЕЗНИ ЛЕГКИХ |
| КУРЕНИЕ ВЫЗЫВАЕТ ИНФАРКТЫ И ИНСУЛЬТЫ | КУРЕНИЕ МОЖЕТ СТАТЬ ПРИЧИНОЙ МЕДЛЕННОЙ И БОЛЕЗНЕННОЙ СМЕРТИ | КУРЕНИЕ МОЖЕТ ВЫЗВАТЬ БЕСПЛОДИЕ |

1SOC.RU
 トラシなども全席禁煙などの店がかなり多くなり年々堅苦しい思いをしています。もちろん自分の健康のこともありますが遊びに出た時に気軽に吸えないことや、周りの友人もやめるひとが多くなりました。JIC でも喫煙者は自分を含めて 2 人だけとなってしまいました。

現在ロシアのタバコパッケージに表示されている主な警告文

思えば、はじめてロシアへ行った時タバコを吸う人がとても多いのでびっくりしました。当時日本では販売されていないタバコを何個か買い求め、お土産にと自慢していたのを思い出します。あの頃は自分も吸い始めて間もないこともあり、まだ“カッコいい”なんてことを思っていた時期だったのでしょう。日本では 1 箱 400 円以上するタバコも 140 円程・・・この頃だともっと安かったように思います。飛行機も喫煙席がまだあったころでした。

あれから 10 数年・・・日本だけではなく世界で禁煙が高まりあれだけタバコ大国のロシアでさえ禁煙、分煙の店が増えたり増税したりと多くの対策をしているそうです。なので僕もそろそろ禁煙・・・は無理ですが、今年から数を減らしていきやがて禁煙となるよう目標を立てて今年 1 年、“減煙”で頑張っていきたいと思っています。

最後になりましたが、みなさまにとっても今年 1 年が良い年でありますように心よりお祈りしております。

JIC 大阪 KOOL MILD

新生ボリショイ劇場

明けましておめでとうございます！

昨年のおいさつでは日本の新たな魅力を探しに行くのと旅人宣言をした私ですが、結局どこにも行かず、日々の生活に追われてあっという間に1年が終わってしまいました！

そんなインドアな2011年の出来事の中で一番興味深かったのはボリショイ劇場のリニューアルオープンです。2005年7月に改修工事



大好きなチャイコフスキーと(クリンにて)

に入ったボリショイ劇場は6年余の工事を経て10月28日に華やかなガラ・コンサートで伝統ある劇場の復活を祝いました。ガラのチケットはプレミア中のプレミア、27万円～600万円(!)で売られているサイトもありました。あまりの高額に驚きよりも呆れてしまいます。

公演や劇場内部の様子をロシアのネット中継で見ましたが、久しぶりのその舞台に感動！・・・はしませんでした。ご存知の通り、ボリショイ劇場の内部は白と赤を基調として豪華な金の装飾が見事に調和して高貴なイメージを作り上げているのですが、できたてはやほや、まっさらだからなのか、漂白したような白に鮮やかすぎる赤と、ギラギラした金が派手にコラボしていて安っぽい。。。もっとも画面でしかまだ見ていないので実際に行くとは別の感動があるのかもしれませんが。メドヴェージェフ大統領をはじめ各界の著名人が出席したガラコンサートの出来も、形式的で正直あまりよくありませんでした。

2005年のモスクワ音楽劇場のリニューアルオープンガラのほうがダンサー、オーケストラ、劇場スタッフ全員がこの日を待ちわびたという思いとはじけるような喜びが直に伝わってくるような舞台で一緒になって楽しむことができました。

生まれ変わったボリショイ劇場をみて、舞台装置など最新で素晴らしいものを取り入れてはいますが、やはり劇場は時間とともに生きてこそあの独特の色や空気感が生まれるのだなあと改めて歴史の重みを感じました。とにかくにも世界のボリショイ劇場です。これからも観客とアーティスト、スタッフみんなに愛されて素敵に歳を積み重ねていくでしょう。

ということで皆さん、今年は新しいボリショイ劇場に行きましょう！

JIC 大阪 山川詩保子

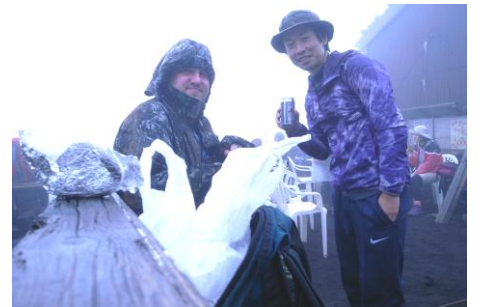
8月・9月の富士山登山

新年明けましておめでとうございます。インバウンド部の竹村と申します。

昨年8月下旬に友人と日帰りで富士山に登りました。登山シーズンには、小田急線の新松田駅から、須走口五合目行きのバスがあり、それを使い、須走口まで行きました。

登り始めは、余裕な感じだったので、速足で登っていました。少し経つと、履いていたスニーカーの靴底のスポンジが少しはがれてきました。このスニーカーは五年ぐらい前に買って最近履いていない靴でした。生まれて一度も靴底が剥がれたことが無かったので、大丈夫だろうと言い聞かせながら、やさしく登ったのですが、砂がその間に入ったりして、いつのまにか、つま先の部分にだけ靴底が付いている状態でした。この靴底を見ながら、山小屋にガムテープ売ってないかなあとか、靴屋さんあったらいいのになあなんて夢みたいなことを考えて

いました。すると、登山慣れた人がそばを通って、わたしの靴底が剥がれているのと、相当落ち込んでいる雰囲気気づいたのか、リュックからガムテープと靴ひもを取り出して、わたしに『良かったら使ってください』と、くれたのです。願っていたことが叶い、



その人が、神様みたいに見えてしまいました。そして、何かお返しをしなければと思い、リュックには、ビールとおつまみと、カロリーメイトがあったので、私の持っている物の中で一番役立ちそうな、カロリーメイトを渡しました。そして、靴にガムテープと、紐を巻き登り始めました。なんとか七合目に着いたのですが、時間はお昼過ぎ、友人は疲れ果て、スニーカーの底はまた剥がれそうだったので、友人と話し合った結果、この状況での日帰り登山は難しいので下山することにしました。

そして、9月中旬に再度、登りました。8月すぎると富士山は登らない方がいいと聞いたことがあり、本当に登って大丈夫か、インターネットで調べたりすると、雪が無ければ大丈夫そうだったので、買ったばかりのトレッキングシューズを履いて、前回より1時間早い8時から頂上へ向け登りました。ゆっくり登っていると、いろんな人に抜かれて行くのですが、

その中に、中国語で電話しながら、フリースのポケットに500mlのペットボトルだけ持って、手ぶらで登山的な人もいました。さすがに8合目を超えると、ダウンジャケットを着てちょうどいい感じなので、さっきの手ぶらの人はちゃんと登ったのかなあとか思ってしまいました。17時ようやく頂上に着きました。山頂は天気が悪く、風が強かったのですが、登った時の気分は最高でした。下りは、走りながら急いで降りて行ったのですが、18時を過ぎると辺りは真っ暗になってしまい、二人でヘッドライト1つ使い、遭難しないか不安になりながらも、なんとか19時半に須走口五合目に到着することができました。

今年は、ガムテープと靴ひもをくれた人のように、困っている人がいたら助けられるような『余裕』を持てるようにしたいです。では、本年もよろしくお祈りいたします。

JIC 東京 竹村 貢

変化の年

明けましておめでとうございます。昨年お世話になりました。本年もどうぞよろしくお願い致します。

2011年は私にとって変化に富んだ年となりました。重要なことの一つは6月に大学を卒業したことです。授業は難しく、宿題も多く、卒論でも困ることがあって、大学の4年目は大変でした。しかしそれらを面白いと思うことができたのは先生のおかげです。学生たちに自分で考えること、勉強している科目を理解するということを教えてくれました。

ついでに、2011年にアジア・アフリカ諸国大学(以下、「ISAA」)の設立から55年となりました。ISAAはクレムリの向かいに位置するモスクワ大学の一番古い建物にあります。卒業生の中には有名な作家、政治家、外交官がいます。たとえば、E. プリマコフ(政治家)、B. アクーニン(ロシアの小説家、島田雅彦、三島由紀夫などの作品のロシア語翻訳も手がける)です。以前はISAAでは男性の入学者が多かったのが、今現在、状況が大きく変わって、ISAAの学生の約70パーセントは女性となりました。



友達と一緒に

もう一つの大事な変化はJICに勤め始めた事です。大学で教えてない、教科書にないわからないことが沢山あって、私の失敗があるのはまったく疑いの余地がありませんが、毎日勉強のための生活を過ごしたい私は新しい経験

をすることが出来ます。新年もいい仕事をするために頑張ります。皆様にとって12年が良い年になりますように！良い思い出で一杯になる面白くて、忘れられない旅行になることをお祈りします。

JIC モスクワ チスティーリナ・イリーナ

週末の楽しみが増えました！

昨年大変お世話になりました。2012年が皆様にとって、笑顔いっぱいの良い年になります様お祈り申し上げます。

身内の話で恐縮ですが、昨年妹が産みました。初めての甥っ子です。

私の実家は山形のため、妹夫婦は週末になると実家代わりうちに遊びに来てくれます。三姉妹なので、私にはもう一人妹

(三女)がいます。妹も甥に会いたくて、週末はうちに遊びに来てくれます。

仕事や用事で全員揃わないことも



伊勢のおかげ横丁にて

ありますが、月に数回は私たち夫婦+妹(二女)家族+妹(三女)の総勢6人が、我が家のリビングで過ごしています。みんなで一緒にお昼ごはんを食べ、おしゃべりをして、晩ごはんを食べて解散がいつもの流れです。私と妹(三女)は甥っ子と遊べるし、私の夫と妹の旦那さんはお昼からビールが飲めるし、妹(二女)はゴロゴロしながら日ごろの子育て疲れを解消できるので、週末の集まりはみんなにとって良いものとなっています。最近は甥のハイハイがかなり上達し、ものすごいスピードで家中を移動できるようになりました。何でも触って、何でも口に入れようとします。そのため目が離せなくなりましたが、穏やかでのんびりした週末を過ごしています。

風邪をひいて甥に移してしまっはいけないので、昨年は運動する様心がけ、自分の体調に気をつけるようになりました。おかげで昨年は大きな風邪をひくことなく過ごすことができました。自分のためだけだったら怠りがちな体調管理も、人のためだったら頑張れるのだなと感じました。

2012年もみなさまのご旅行のお手伝い出来るのを楽しみにしております。本年もどうぞJICを宜しくお祈り致します。

JIC 東京 鶴田 ゆり

大好きです！

明けましておめでとうございます。

昨年は長年の夢でもあったグルジアを訪れました。

軍用道路を通してガズベクまで続く道はまさに、レールモントフの詩の世界でした。延々と続く山道ですが、いくら見ても見飽きることなく、あまりの美しさと雄大さに圧倒され続けました。

まさにコーカサスの山が表情を変え、話しかけてくるようでした。道中、何度も羊の群れに道を塞がれたり、牛や羊が歩



初めて訪れたグルジア
トビリシのメテヒ教会にて

きまわっている村を見て、昔のままの風景の中にタイムスリップしたような気分でした。

今回、美しい自然と同じく感動したのがグルジア人の温かさや人柄の良さでした。

今年 6 月にグルジアバレエ団が来日します。昨年の震災で多くのアーティストが未だに来日を取りやめる中「私たちは、なにも怖がらないわ。いつもあなた達と一緒によ。」と温かい言葉をもらいました。

多くのグルジア人はロシアとの紛争に関しては、「これは政治のこと。誰も望んでいない。私たちはロシア人とずっと仲良く住んでいるのに。」とのこと。

旅で出会ったグルジアの人たちはみんな自分の国が大好きでした。話す人々から祖国への温かい愛情が感じられました。そして観光客として訪れた私も温かく親切に接してもらいました。7 日間滞在しましたが、もっともっと長くいたいなあって思うほどでした。また、必ず“来るから”ではなく“戻ってくるから”と言ってグルジアを去ったくらい、居心地が良く、大好きな国になりました。

渡航前はロシアとの紛争があり、まだ戦争の傷跡があるのではないかと、治安が悪いのではないかと不安がありました。実際に自分の目で見ると、街の雰囲気は穏やかでテレビや新聞で知るわずかな情報とはこんなにも違うものかと驚きました。今回の旅は本当に本当に印象深い旅になりました。

今年もよろしく願いいたします。

JIC 東京 中林英子

アパート探し

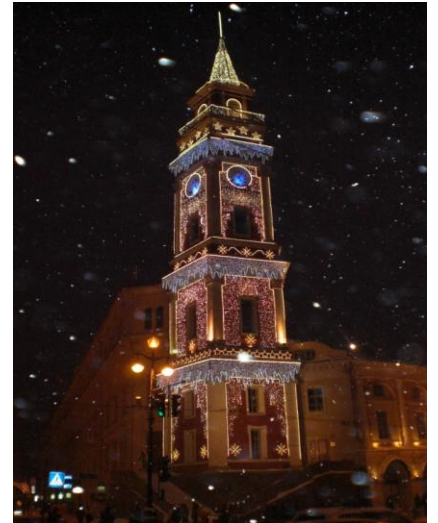
明けましておめでとうございます。今年もよろしく願い致します。

昨年末、アパート探しを始めました。今の生活環境では不便なので、それを改善するため町の中心部へ引っ越したいと思ったからです。

ペテルブルグでのアパート探しは高級住宅を除いて、いい物件が出てきたら、その日の内に見に行かないとすぐになくなってしまふ、というとてもハードなもの。どんなに条件の合う物件でも、その日に都合がつかず、見に行けなければ終わり、それも毎回いきなり情報が入ってくる場合が多いので他の予定も立てられず、仮に見に行けたとしても気に入らなかつたり・・・そんな状態が 1 ヶ月も続き、へトへトになってしまいました。そんな時に心を癒してくれたのが、現在住んでいるアパート周辺の自然でした。

石と車ばかりの中心部から、うって変わって広々とした空間、木々、新鮮な空気。アパートからほんの数歩のところには、白樺、楓、ポプラの木が生い茂り、季節によってはリンゴの実がなり、きのこが生え、その他いろいろな木の実がなります。夏には緑がまぶしく、秋には枯葉の黄色いじゅうたん

が回り一面に広がり、葉がすべて落ちてしまった冬の今さえ、裸の木を見ては思わずほっとしてしまいます。アパートを出なくても、キッチンの窓から外を見ると、ちょうどこちら目線と同じ高さに猫が寝ていたりします。家の前の木によく猫がお昼寝に登ってくるのです。その姿を見るだけでも、心が和みます。不満を感じていたこの環境はこんなにたくさんの物を与え



ネフスキー大通りの時計塔。
新年のお祝い時のみ、
決まった時刻になると音楽が流れる。

てくれていたんだ、と最近になってようやく気付くようになりました。

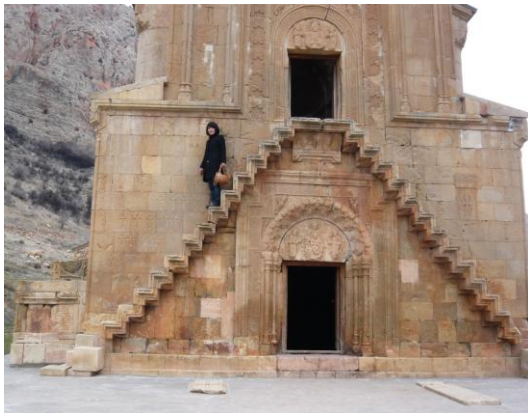
これを書いているのは 11 月末で、新年をこのアパートで迎えているのか、それとも別の場所に引っ越しているのか。それは分かりませんが、どこに居ても、こういった何気ない、そして当たり前になりすぎて気付きにくなっている大事なものを見過ごさない、そんな心の状態で一年を過ごせれば、と思います。

JIC サンクト・ペテルブルグ 奥田 美千代

電車で

明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

先日、電車にのっていたときの事です。目の前に座っていた女性が降りたので、空いた席に座ると、私の前に立っ



アルメニア・ノラヴァンク修道院にて

ている男性から「落ちていますよ」と。視線を落とすと、見覚えのない女性用のマフラーでした。拾い上げて「私のじゃないです」と返事をした

瞬間、私とその男性は、同時に電車のドアに目をやりました。今まで座っていた女性が落としたりに違いない、と私たちは思いました。その女性はドアから出てしまったのか、人混みの中なのか、もう見えなくなっていました。その男性は読みかけのハードカバーの本を閉じると、女性用のマフラーを預かってくれ、網棚に置いていた自分のバックを持ち、閉まりかけたドアから降りて女性を追いかけに行きました。その男性の行動は普通のことかもしれないのですが、私は、あの女性はもう降りているし、あの人のものじゃないかもしれないし、と自分は悪くないと思ひこむためのいい訳で頭がいっぱいでした。その男性が優しいのはもちろんですが、正しいと思ったことを、すぐに行動にうつせることがすごいなあと思いました。私だったら電車から降りて追いかけるか、と今でも考えてしまいます。あの時のことを思い出すたびに、やっぱりすごい人だなと思ひ、自分も見習おうとつくづく思うばかりです。少し恥ずかしかったり、下手ないい訳を思いついたり、なかなか体と感情が追いついていかないのですが、正しいと思うことをさっと行動にうつせる、そんなひとを目指して今年もがんばりたいと思います。

JIC 東京 柳沢昭子

ごうりてき こうりつてき

最近のいただきモノの話をします。

一、去年、友人が風変わりな手土産を持ってきました。化学調味料の小瓶です。何でも、A社の工場見学をした際にもらったんだとか。おもしろそう！いま我が家は乳飲み子を抱えているので、工場見学へはなかなか足が向きにくいのです。だからこういうのは素直にうらやましい。

食品にうま味をつけるという目的において、化学調味料ほど安く、早く、大量にそれを実現しているものはありません。例えば、コンブだしのうま味の成分は、グルタミン酸ナトリウムというアミノ酸ですが、これをいちいちコンブから取り出したりしないで、全然違う原料から合成すれば、それが即ち、化学調味料となるわけです。だしをとるという作業は、何よりもまず、うま味を抽出する行為なんですから、結果的に同じ成分が得られるなら原料など何だっていいのです。

一、同じく去年の話、私にロシア・ソヴェート紀行文学集(※)の古書を進呈くださったお客様がいらっしゃいました。まず一瞥するなり驚嘆したことには、この本、執筆陣が豪華すぎです。徳富(富)蘇峰、蘆花に始まり、二葉亭四迷や林芙美子、さらには片山潜や宮本百合子など活動家タイプに至るまで、いや実に、そうそうたる顔ぶれです。そんなわけで、収録作品はどれもこれも命がけの凄みにあてられてしまいそうな、刺激の強い旅行記ばかりなのですが、とりわけ、20世紀前半の作品群の読みごたえには卓抜したものがあります。執筆から1世紀を経て、いよいよその奇譚っぷりが熟成したといいいましょうか、今がちょうど読み頃というにふさわしい感じなのです。

ページを繰っていると、ああ、世の中はこんなに変わったのだ、と妙に感心させられるような語り口にしばしば行き当たります。例えば画家の川島理一郎がシベリア鉄道を評し



て曰く、「諸君も急がれる時は、シベリヤが割合便利であることを御紹介したいと思うのです。」と(1927年)。ちなみに

川島の目的地はパリです。どうですか、きょうび、一体誰が、欧州へ行くのに「急ぎだからシベリア鉄道を使おう」などと言うでしょう。

さてここからは、シベリア鉄道と化学調味料は、どこか似ている、という危険思想の話ですので、覚悟してください。

洋行といってももはや死語ですが、欧州へは船旅が主流の時代のさなか、ほとんど奇跡のように完工してしまったシベリア鉄道は、それはものすごいイノベーションです。何しろ劇的に早く着くのですから。そして、多くの乗客は、まるでこの早さこそが汽車旅の唯一の取り柄であるかのように、ひたすら目的地へ到着することを希求して車内を過ごします。

これが化学調味料の方法だと思うのです。はっきり言って、グルタミン酸ナトリウムが手に入るなら、材料はコンブでなく

ていいのです。いっそ石油から作っても、いいのです(実際そうしていたこともあります)。この革命的思考は、初期のシベリア鉄道利用者の意識と近いものがあります。大事なことは到着することであって、結果が同じならば、あとは手段に過ぎません。だからきっと、彼らの車窓風景の描写はあんなに単調になるのです。車内の生活には退屈さがにじみ出ているのです。

でも、現代の我々から見れば、シベリア鉄道も結局は中途半端な存在だったのかもしれない。旅行の世界で、今のところ本当に効率よく味成分を製造することに成功しているのは、飛行機だけです。特に大型ジェット機、これによって初めて、旅行者は、安く、早く、大量に地球の裏の目的地へも到着できるようになりました。飛行機に比べれば、シベリア鉄道など雑味が多すぎて勝負になりません。さらに新しいイノベーションの登場は、シベリア鉄道を化学調味料からコンブに変えてしまいました。

Mさんは飛行機でパリへ行きます。

Nさんはシベリア鉄道経由でパリへ行きます。

問:あなたはどちらのパリに行きたいですか。

どっちも同じパリじゃないか、という人は正しい。こういう人はたぶん、飛行機しか使いません。そして、いつかもっと便利な移動手段が現れれば、飛行機を捨てます。そして、そもそも人間が移動する必要がなくなれば、あっさりと旅を捨てます。全く合理的な行動で、ケチのつけようがありません。

じゃあ、同じ目的地でも、たどり着く過程によって違う価値を生むだろう、と考える人はどうなのか。それもアリです。こういう人は、あるときは飛行機を使い、あるいはシベリア鉄道を使うこともありうるでしょう。

これからも旅行業の顧客として残っていただけそうなのは、後者のタイプ「だけ」です。それは手段や過程が、同時に目的にもなり得る人、言うなれば、天然だしにも価値があると考えられる人たちです。購入するものが仮に工業的に大量生産されたものと、全く同じ成分、同じ味であったとしても、手間ひまがかかっているという事実に感動し、精神的満足感への対価を支払うことに抵抗がないような人たちです。

ただし、私たち旅行業者の主な役割は、もはや素材からうま味をとり出すことではなくなっているでしょう。必要なのは、同じコンブでも、利尻と、日高と、羅臼の違いをよく知って、適切に使い分けられる高度な専門性を持った職人です。うま味成分はどのコンブもグルタミンナントカで同一なんですから、そっちが目的の顧客には、オンライン販売でよく、かつ、おそらくそれが最適解です。職人の活躍の場は、うま味の濃淡の競い合いを捨てて、雑味の違いを生かすことにあり、またそのプロセスをいかによく見せるか(こっそり本音を言えば、いかに高く売るか)にあります。

ところで、冒頭の友人が私に化学調味料をくれたのはもう2度目なんです。初めてもらったのは2000年、インドネシア

からの土産でした。その頃はちょうど、製造過程に豚由来成分が含まれた触媒を用いていたことが発覚して大問題となり、インドネシアの店頭からA社の製品が姿を消す騒ぎとなっていました。友人はこの事件を面白がって、わざわざ探し出してきたというわけです。彼の旺盛な野次馬根性にあきれたものですが、私もイスラムのルールをいい加減にしか知らなかったことを、図らずも思い知ったのでした。豚を口にするのは絶対にタブーであるとはもちろん知っていましたが、実は、厳格な決まりの下では、豚が一切含まれていない食品でも、豚と一緒に保管していたというだけで、アウトになるようなのです。

合理化と効率化の権化のような化学調味料でさえ、その製造時の手段や過程を重んじるあまり、場合によっては製品を無価値にしてしまう。そんな文化に、当時は少なからず違和感を覚えたものですが、今となっては案外、経済を回すには有益な考え方なんじゃないかと思いはじめました(何事も程度ですけれどね)。だって人は心で動くのです。旅する人は特に。

※志賀直哉・佐藤春夫・川端康成監修『世界紀行文学全集 第十巻 ロシア ソヴェート編』(修道社、1960年)

JIC 大阪 岡本健裕

JICインフォメーションでは みなさまからの投稿記事を募集しています!

ロシア・旧ソ連渡航記、旅行での体験談、面白エピソード等、旅のジャンル、季節は問いません。ロシア・旧ソ連にまつわる記事を募集しています!!!

■募集要項: Word 文書にて、題名・氏名・本文を明記し下記メールアドレスに送信して下さい。

字数: 本文 1700 文字前後

写真: メールに添付(2 枚程度)

件名: 「JIC インフォメーション 投稿記事」

必須事項: 住所・氏名・電話番号

送信先: jictokyo@jic-web.co.jp



■お願い: 掲載された記事・写真は JIC 旅行センターのホームページにも転載されます。投稿記事採用の発表はインフォメーションの発送をもって代えさせていただきますが、編集の際当社よりご連絡させていただく場合がございます。予めご了承ください。

